

赤平市は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律の施行に伴い、有史以来、財政課題の克服に向け、市民、議会、並びに職員の総力によって行財政改革に取り組んできた結果、最大の課題とされていた病院事業会計の不良債務についても、平成23年度決算において、全額解消が見込まれる状況となりました。

市民をはじめ、大変多くの皆様方にご支援をいただきましたことに、改めて心より感謝を申し上げます。

一方、財政危機を回避したものの、第5次赤平市総合計画が示す目標人口が予定を下回っている現状にあり、まちの再生元年として、市民と共に一歩前へ踏み出す、果敢にチャレンジする姿勢を一層強く持ちながら、創意工夫とスピード感のある行動を展開してまいらなければなりません。「産業振興」「少子化対策」「住環境整備」の3つの重点プロジェクトを中心に予算化を含め積極的に推進します。

私は、市長に就任以来「まちづくりの主人公は市民である」「自らのまちは自らつくる」ということを申し上げ続けておりますが、地域住民の意思が、これまで以上に反映される取り組みを進めてまいらなければなりません。私も、子ども行政も一市民であるとの目線に立ち、情報を提供し共有し合う、また、市民と話し合える場づくりに努め、お互いに理解を深めながら、各々が持つ役割や協働で行うべき事項を明らかにすることで、自己責任と支え合い協力し合える調和の取れた社会の実現に努めていきます。

# 市政執行方針



## 1 すいやかで安心して暮らせる社会をつくりましょう

### ◆保健事業

運動や栄養、たばこ対策、うつ自殺対策等の健康教室や講演会の開催、並びに健康相談等を実施し、市民の健康づくりを進めていきます。

### ◆生活習慣病対策

特定健診を始めた基本健診の受診率向上に努め、個々の段階に見合った保健指導を充実させていきます。また、がん検診の受診率を向上し、早期発見、早期治療に繋げるほか、ヒブ・小児肺炎球菌ワクチンや子宮頸がん予防ワクチンなど、本人費用負担の軽減を図り、各種予防接種を受けやすい環境づくりに努めます。

### ◆感染症予防対策

新たに中学生以下のインフルエンザワクチンについて、1回当たり1,000円の公費負担を実施するほか、感染予防に対する正しい知識の普及啓発を行っていきます。

### ◆母子保健事業

引き続き妊婦健診費用負担を実施するほか、各種健康診査、家庭訪問・相談の実施や健康教室を開催していきます。

### ◆介護保険事業

地域に密着した介護サービスの提供と介護保険給付を実施していきます。さらに、平成22年度から産学官協働事業として実施している「あかび

ら・地域まるごと元気アッププログラム事業」を継続していきます。



### ◆地域医療

市立病院の経営改善に全精力を挙げてきましたが、現状の病院規模や診療・救急体制等をできる限り維持することが今後の大きな課題であり、引き続き、医師を中心とした診療体制の確保や透視医療の維持、広域的医療の連携強化に努めながら、単年度収支の均衡を図りつつ、持続可能な経営の確立を目指していきます。また、病棟に關しましては、老朽化が著しいため、入院患者さんに大変なご不便をお掛けしていますが、今後の経営見通しを明らかにした上で、市民の皆様のご意見を伺いながら検討していきます。

### ◆国民健康保険事業

前期高齢者交付金の過去の精算調整が多額に発生したため、一般会計からの繰入金を増額し単年度収支

の均衡を図っていきます。また、特定健診や特定保健指導による受診率向上に努め、医療費の適正化を図りながら、健全な運営を目指します。

### ◆高齢者福祉

地域の支援体制を構築し、緊急時を含む公的サービスを支援することによって、日常生活の安心と安全な暮らしを確保すると共に、楽しく学び、交流や活動ができる環境づくりに努めます。また、入所待機者が多い介護老人福祉施設の増床整備を図る市内の事業者に対して、建設費用を助成します。

### ◆障がい者福祉

「第2次赤平市障害者基本計画」及び「第3期赤平市障害者福祉計画」に基づき、施策の推進を図っていきます。また、平成23年度末に「赤平市障害者自立支援協議会」を創設し、地域の関係者が課題を共有すると共に、その課題を踏まえて、地域のサービス基盤の整備を進めていきます。

### ◆少子化対策

本年度から、子育て世帯の負担軽減を行うことを目的として、中学生以下の子どもの保険適用外、及び食事療養費等を除く医療費について全額助成するほか、保育所・幼稚園・小学校・中学校における日本スポーツ振興センター共済の保護者負担金についても公費負担とします。

本市の継続的課題は人口定着化や経済と暮らしを守り、まちの活力を見出すことです。本市を取り巻く経済環境は、雇用をはじめとする課題が山積している状況に加え、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の影響も懸念されるなど、予断を許さない状況が続いており、公共建設事業を確保するなど、事業推進を図りながら、雇用・経済対策を講じるほか、民間産業の担い手となる職員らの人材育成や企業に対する支援策の強化を図り経済活性化に努めます。

また、全国を上回る速さで少子高齢化が進んでおり、本年度から、中学生以下の子どもたちを対象に、医療費の自己負担の無料化、及びインフルエンザワクチンの接種費用の一部助成、社会教育施設、並びに体育施設の使用料の無料化を実施すると共に、幼稚園及び保育所の遊具等の整備を図るなど、環境改善に努めます。そして、暮らしの基本となる安心・安全で快適な住環境を整備するため、公的住宅の建て替え事業や長寿命化に向けた維持補修、並びに公園整備を計画的に進めます。

このほか、小・中学校適正配置や消防、並びに戸籍事務の広域連携、遊休公共施設・遊休市有地の活用など多くの課題を抱えておりますが、市民の皆さんとスクラムを組んで、「あふれる笑顔輝く未来を創造するまち」の将来像の実現に向け、確実に前進する一年となるよう努力します。

以下、第5次赤平市総合計画の5つのまちづくり目標に沿って、施策を推進します。

#### ◆保育所

平成23年度に引き続き、修繕並びに遊具等を重点的に整備し、施設の環境改善を図ります。また、現在、国が制度創設を進めている「子ども・子育て新システム」を踏まえ、新たに、幼保一体化プロジェクトチームを行政内に設置し、幼保一体化の可否や病児・病後児保育等についても、引き続き検討します。

#### ◆子育て支援センター

今後乳幼児期の発達相談・支援を行うため、職員研修等を通じた専門的知識の向上に努めていきます。

#### ◆児童館及び児童センター

児童館が地域の子育ての場となるよう継続的に運営していきます。また、本年度より、放課後児童クラブの開設時間を午後6時まで延長するほか、文京・茂尻の両児童館については、施設の老朽化が著しいため、学校空き教室の活用等の可否を含め、今後の方向性を検討していきます。

#### ◆母子寡婦福祉

母子家庭等日常生活支援事業、高等技能訓練促進事業、及び自立支援教育訓練給付事業によって、自立した生活を実現できるよう支援していきます。

#### ◆地域防災

自主防災組織の設置に向けて取り組むほか、本年度は、平岸地区の地震を想定した防災訓練を実施していきます。さらに、万一の災害に備え、引き

続き防災資機材、並びに災害備蓄品を計画的に購入します。

#### ◆消防・救急救助

救命率の向上に向け、AEDを用いた救命講習会を開催していきます。さらに、平成26年度までに救急デジタル無線設備も含めた庁舎を文化会館跡地に建設するため、本年度は、基本設計を実施します。

#### ◆消防団

消防団員が減少しており、市広報誌等を活用し団員確保に努めていきます。また、文京分団詰所については、平成23年度の実施設設計に基づき建て替えを実施していきます。

#### ◆消防の広域連携

平成23年度から滝川地区広域消防事務組合に対し、新たに、芦別市と赤平市の加入の可能性について協議中ですが、地域と将来を見据えた中で慎重に結論付けていきます。



#### ◆交通安全対策

一昨年度絶えた交通事故死ゼロを新たに2,000日の目標を掲げ、交通関係団体や各町内会、関係機関と連携し、交通安全に対する意識の高揚と交通安全思想の徹底を図り、交通事故撲滅に向けた取り組みを進めていきます。

## 2 大地に根ざした たくましい産業をつくりましょう

本年度から、新たな地場産品による新製品や新商品開発を促進するため、「チャレンジ・アレンジ産業振興奨励金」を創設するほか、まちの産業の担い手となる人材を育て、異業種間の連携を強化するため、「産業振興人財育成事業」を実施していきます。また、企業による設備投資や雇用確保等による事業拡大、並びに企業誘致を推進するため、企業振興促進条例を改正し助成率及び助成額等の制度拡充を図っていきます。

#### ◆公共建設事業

空知産炭地域総合発展基金基盤整備助成事業が平成23年12月で時限失効となり、財源が厳しい状況ですが、可能な限り公共建設事業の確保に努めていきます。

#### ◆食ブランド開発

昨年、民間によつて長期保存が可能な「がん鍋」が商品化され、さらに、市内飲食店による「がんが鍋協議会」が設立され、引き続き、関係機関と連携を図りながら、各種イベント等への参加を含め、積極的にPRするほか、高度クリーン米や農産品・加工品の生産の向上、流通ルートの拡大に努めていきます。

#### ◆異業種連携

「産業振興人財育成事業」に加え、「第3回赤平産業フェスティバル」を開催し地元の食料品や生產品、製造品を一堂に集め、販売並びにPRに努めながら、地産地消の拡大と農業・商業・企業の三者の連携強化を図っていきます。

◆工業 企業振興促進条例の改正を機に、市内企業や企業誘致活動の訪問先に対し助成拡大の内容を周知しながら、事業拡大や技術開発を支援するほか、企業誘致の条件整備として活用すると共に、引き続き、空知産炭地域総合発展基金の新産業創造等助成事業に基づく支援を行っていきます。

◆商業 店舗近代化促進事業や空き店舗の活用などを含め、業者や商工会議所などと連携を図りながら検討を進めると共に、スーパープレミアム商品券に対する助成を継続していきます。また、地域密着型の店舗を存続するため、予約・配達サービス等の機能強化に関して、関係機関と連携を図っていきます。

◆農業 耕作放棄地の防止等による良好な農地を保つ、中山間地域等直接支払事業交付金の活用や、ため池、並びに水路の生活環境保全などを行うための農地・水保全管理事業等を実施す



るほか、Uターンされている農業後継者に対して、農業研修や農業技術を習得するための費用を助成する農業後継者サポート事業を実施していきます。

◆林業 未来につなぐ森づくり推進事業や森林環境保全整備事業、分収造林事業などを通じて、計画的な植林や保育等を行っていきます。

◆観光 エルム高原施設の既存施設を最大限に活かしながら、自然に溢れるイベントを開催するなど、効果的なソフト事業を推進するほか、温泉施設やケビン村の補修工事等を実施することによって、利便性の向上を図り、利用者の確保に努めていきます。さらに、本年度も、世界的に著名な彫刻家である流政之氏の「ATONYAMA」を始め、三体の彫刻作品を寄贈していただくため、本市の新たなモニュメントとして、末永く後世に伝えて行くと共に、市内の観光名所、並びに市民のシンボルとしての気運の醸成に努めていきます。

◆炭鉱遺産の活用 炭鉱遺産に関して、市内の団体を中心に、ガイドツアーやフットパス等が実施されており、参加者が増加傾向にあります。団体に対する支援を継続すると共に、炭鉱遺産と他施設や他事業と連携した取り組みの可能性について、関係

機関と協議していきます。

◆イベント 「らんフェスタ赤平」あかびら火まつりのこれまでの伝統を継承しつつ、イベント内容の充実を図るため助成を行うほか、本年度も市民の皆さんにご支援をお願いしながら、

### 3 生きる力を育む 生涯学習社会をつくりましょう

平成23年度に策定された「赤平市小・中学校適正配置計画」を基

に、市民の理解を得ながら、学校統合に向けた作業を進めていきます。また、生き生きと学び続けることができる学習社会や健康増進、スポーツ振興、並びに文化や歴史を継承するため、社会教育及び社会体育施設の充実と各種事業を進めていきます。

◆幼稚園 平成23年度に引き続き、遊具等の整備を重点的に進め、良好な環境づくりに努めるほか、本年度から預かり保育期間を拡大します。

◆小・中学校 学習指導要領に基づき、知育・徳育・体育の調和のとれた教育に努めるほか、学校施設及び設備の充実を図っていきます。また、小学校においては、副読本を改定し、まちの文化や歴史を継承します。さらに、「赤平市小・中学校適正配置計画」を基本に、学校校舎施設整備の具体化に

3,000発の花火大会の継続に努力していきます。



ついて検討していきます。

◆赤平高校 道教委の配置計画により、平成25年度募集停止との厳しい判断が下されておりますが、引き続き赤平高校を支援しつつ、道教委に対し、高校存続の要請を行っていきます。

◆学校給食 食育と栄養バランスに配慮しつつ、子どもたちに喜ばれる安全・安心な給食の提供に努めるため、献立の工夫や設備整備を行っていきます。

◆社会教育 交流センターみらいを中心として、市民や各種団体活動の利用を促進するため、各種講座や講演等を開催するほか、施設整備に努めていきます。また、子どもたちの社会教育機会への参加、並びに体育振興を図るため、市内の中学生以下の子どもたちについては、社会教育・体育施設の使用料無料化を実施します。

◆文化・歴史の継承 遊休公共施設を含め、今後の施設の在り方と継承方法について検討してきます。

◆青少年教育 青少年育成事業やふるさと少年教室などの充実を図ると共に、子どもたちを非行や事件、事故、児童虐待などから未然に防止するため、地域や関係機関と連携していきます。

◆図書館 市民がより利用しやすい環境をつくるため、平成23年度から導入した図書館管理システムのPRに努めると共に、

### 4 ゆとりと潤いのある 快適な生活を支えましょう

公的住宅につきましては、「住宅マスタープラン」及び「公営住宅等長寿命化計画」を基本に、団地の集約や戸数の縮減と建設コストの削減を図りながら、高齢者等に配慮した良好な住環境整備を進めていきます。

◆公営住宅建替 平成25年度の茂尻第一団地3号棟建設に向けた実施設計、並びに新春日団地6棟26戸の除却を行い、福栄地区の改良住宅建替事業につきましては、8号棟1棟8戸の建設を実施します。

◆既設の公的住宅 入退去時の補修と老朽化した住宅等の安全性や緊急性に考慮した修繕を行い、空き家の落雪対策や通路の確保などにも努めていきます。さ

引き続き、図書の充実を図りながら、読書環境の整備を進めていきます。

◆社会体育施設 市民プールの開設期間を拡大し、健康増進と利用者の増大に努めるほか、各体育施設の充実や子どもたちを対象とした専門家の指導による野球や水泳教室を開催するなど、各種大会や行事を通じて、競技力の向上とスポーツ振興を図っていきます。

◆民間住宅 平成22年度から平成24年度までの当面3年間に渡り、住宅改修費用の一部を助成する「あんしん住宅助成事業」を実施してまいります。本年度が最終年度となるため、事業効果を検証し、助成期間の延長等について検討してまいります。

◆移住定住促進事業 「赤平おためし暮らし」事業を引き続き実施するほか、パンフレットを活用し、道内加入市町村による北海道移住促進協議会などと連携を図りながら、人口の定着化に向けPRします。

◆市道

生活の安全性や居住環境整備に向け、引き続き川添通歩道改良舗装、並びに青葉通排水整備を行うほか、本年度は、市役所通・桜木山の手通の改良舗装工事を実施します。また、橋りょうについては、維持管理や更新を計画的かつ効率的に推進するため、橋りょう長寿命化計画を策定します。

◆公園

公園施設長寿命化計画を基本に都市公園改修事業を継続し、本年度は、豊栄町公園ほか4公園を整備します。

◆雪対策

計画的な除排雪対策に努めると共に、町内会等のご協力や市広報誌、市ホームページを活用しながら、除雪マナーの周知を呼び掛け、市民生活の安定と産業経済活動の円滑化を図っていきます。

◆市有地

炭鉱跡地や公的住宅跡地をはじめ、多くの市有地が存在しており、売却・貸与・公共利用等の効果的な活用方針を定めます。

◆上水道

老朽施設の更新を計画的に行い、併せて収入確保と費用節減に努め、経営の健全化を維持します。また、悪質な滞納者に対して、給水停止などの措置を執り、その回収に努めます。

◆下水道

計画的な整備・保全を行うと共に、未水洗世帯の解消に努めていきます。また、公共下水道

区域外における市民が実施する合併処理浄化槽の設備費用に対する助成制度を平成25年度から開始できるよう検討していきます。

◆環境衛生

ごみ分別の徹底や減量化について周知を図っていくほか、地域環境を意識した市民活動の取り組みを支援していきます。また、新たな可燃ごみの処理施設を中・北空知廃棄物処理広域連合において建設していきますが、予定通り平成25年度に

5 人と人が語り合い行動できる地域づくりを進めましょう

◆情報共有

引き続き、わかりやすい市広報誌やホームページづくりに努めると共に、住民懇談会を通じて、市民向けの「今年の予算の使い方」の説明や市民のまちづくりに対する考えや要望について、意見交換等を行います。さらに、ホームページのリニューアルの検討、ブログを活用したタイムリーなまちの情報をお知らせするほか、こんばんは市長室の継続や子どもみらい会議を開催するなど、より多くの市民の声を市政に反映していきます。

◆市民のまちづくり参加

引き続き、まちづくり講演会を開催するほか、子どもから大人まで参加できる「あかびらまちづくりフォトコンテスト」を開催し、

開設できるよう、関係市町と連携を図っていきます。



◆地域資源の活用

赤平駅裏炭鉱跡地活用検討市民協議会からの提言書を基に、できるだけ早期に行政としての全体構想を策定すると同時に、並行して施設用地を開放しつつ、利用促進とその利用方法の可能性について検証していきます。また、遊休公共施設、並びに遊休市有地について、将来を見据えた基本的方向性を定めます。

◆コミュニティ活動

引き続き「町内会等活動推進事業補助金」、並びに「町内会所有施設整備事業補助金」による助成を行い、地域

コミュニティ活動を応援するほか、各種団体におけるまちづくり活動を支援するため、「まちづくり活動推進事業補助金」による助成を行います。また、コミュニティセンター別館を開設し、市民の活動や交流の場として活用していただくほか、行政やまちの情報提供も行っていきます。

◆まちなか里親制度

市民ボランティアによって美化活動を促進するため、PRなどを行いながら登録団体の増加に努めていきます。

◆地方分権並びに地域主権への対応

地域主権一括法等の国の動向に注視し、適切に対応していくほか、中空知管内における広域連携を強化するため、5市5町による戸籍電算事務の共同化、及び3市2町による滝川地区広域消防事務組合の加入について、引き続き協議していきます。

◆行財政改革

本年度は軽自動車税について、標準税率の1.2倍まで回復していますが、今後の財政状況を見通した上で、危機的財政状況を回避するためにご協力をいただいてきた一部住民負担等の回復についても、引き続き検討していきます。また、財政調整基金をできるだけ安定的に確保することによって、国の動きを含む一定程度の変動に対処可能な財政体力を維持できるよう努めます。

以上、平成24年度の市政執行に当たり、私の所信を申し上げたところでありますが、財政危機を脱した今日、これまでの教訓をしっかりと生かし、諸課題に対する迅速な対応と身の丈に合った財政運営を行っていくことを念頭に置きつつ、一方では、歳入確保に最大限努めながら、まちの発展のため、第5次赤平市総合計画に位置付けられている諸施策を中心に積極的に展開します。

赤平市民には、財政難という大きな壁を乗り越え克服した力、その力は貴重な財産です。今度は、これまでの財政再建から、まちづくり再生へと目標を転換し、各々が持つ力を結集することによって、まちの活力が見出され、赤平が元気になることを確信しています。少子化によって、子どもの数は残念ながら減少傾向にありますが、まちの宝となる赤平に住む子どもたちが、将来にわたって、郷土を愛し誇りをもち続けることができる社会を作るのは、我々大人の使命です。

まちの再生元年として、私自身全精力を傾注する決意で臨んでまいりますので、議員各位、並びに市民の皆様の大なるご理解とご協力をお願い申し上げ、平成24年度の市政執行方針とさせていただきます。